

第Ⅲ部 やさしい漢字のおぼえ方

さて、何でもかんでも容易に覚えこむ幼児期に、漢字を与えることをしなかった場合は、どうするのがいちばんよいか、という問題があります。というのは、幼児も三歳を過ぎる頃から、そろそろ、与えられるものを取捨選択し、理解して覚える、という能力が芽ばえ、何でもかんでも覚えるという能力がだんだん働かなくなっていくからです。

ですから、四歳ごろからの指導には理解力を育てるような方法が有利でもあり、必要でもあります。したがって、幼児期をすぎた子供には、そのような方法だけに訴えるようにすればよいわけです。

そこで、そういう学習のために、この第三部で、漢字を理論的に理解できる『漢字学習法』を述べます。

学校では、漢字の学習は、一字ずつばらばらに教えております。こういう教え方は、模倣期の三歳ごろまでの子供には適していますが、小学生や中学生には不適當で、したがっ

て、生徒たちが漢字学習に苦しむのは当然なのです。与えられるものを無批判に、何でも覚えこむという三歳ごろの幼児には、鳩は「はと」という字だと教えれば、何の疑問も持たないでそのまま受け入れ、覚え込んでしまいます。

しかし、四歳ごろを過ぎて、自分なりに理解しようとし、納得できないものは覚えようとしなくなってしまうと、もうそれまでのように簡単に覚えてくれなくなります。こうなったら、わたしの提唱する「合理的な漢字学習法」が必要になります。まして、小学生や中学生には、この「合理的な漢字学習法」で学習させなければ、絶対にと言ってもいいくらい、成功は望めません。この学習法によれば、記憶がどんなに下降線をたどっていても、容易に、しかも楽しく覚えられます。まず、お母さんがその学習法で漢字を覚え、そのあとで、子供の指導に当たっていただきたいと思います。

〈一〉 漢字の成り立ち

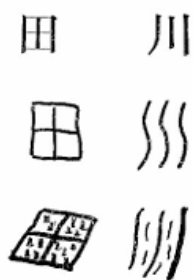
絵から生まれた字——象形

「文」という言葉の「文」とは字の基本で、これが組み合わされて「字」が生まれます。ですから「字」は「家」の中に子がいるのです。つまり、「文」は「字」の親です。

さて、「文」には、「象形」と「指事」とがあります。象形とは「形を象る^{かたど}」という意味の言葉で、形のあるものを、形どおりに書き写したものであるという意味の言葉です。指事とは「事（形のないもの）を指し示す^さ」という意味の言葉です。つまり、世の中には、形のあるものがないものがあって、形のあるものを形どおりに書き写したものが「象形」で、形のないものを符号で指し示したものが「指事」だというわけです。

「象形」の例

どこの国の文字も、その初めは「絵文字」で、形のあるものを絵に描いて表わしたので、さらにこれを簡略にし、書きやすくしたのが「象形」です。ですから、ちよつと直せば絵になりますし、そのままでも気をつけて見ればわかるものもありますので、教える前に子供に考えさせて、当てさせると、楽しい遊びにもなります。



事柄を示す字——指事

形のあるものは、絵にして示すことが容易にできますが、形のないものは、絵にすることできませんから、昔の人も、これを表わすのには困ったにちがいありません。

しかし、ついに、符号でその意味を表わすことを考えつきました。『こと』は、目に見える『物』に対して、目に見えないことを言います。だから、『物事』とは「形のあるものも形のないものも、目に見えるものも、目に見えないものもすべて」という言葉です。

こうしてできた指事は、符号で、ことさらに指し示していますから、よく見て考えますと、意味のわかるものがたくさんあります。これも、子供にヒントを与えるなどして、当てさせてみると、喜んでやります。

雨	門	角	貝	魚	犬
					
象	戸	女	玉	日	牛
					
卵	刀	母	糸	月	馬
					

「指事」の例



なぞ解きて遊べる字——会意

「字」には、「会意」と「形声」とあります。会意とは、「意味を会わせる」という意味の言葉で、二つ以上の「文」（象形または指事）を組み合わせで作られたものです。

象形と指示とは、物と事とは表わせますが、物事の状態や動作を表わすことはできません。そこで、たとえば、「やすむ」ことを表わすのに「人」と「木」とを組み合わせ、「人」が木の陰でやすむ」という意味で「休」という字を作りました。

こういう会意字は、なぞを解くようなおもしろさを秘めていますので、やはり、ヒントを与えて、その意味を当てさせることが有効です。ぴたりとは当たらなくても、やや近くまでは推理できた、というだけでもおもしろいものです。

「会意」の例

林 木がたくさんある「はやし」
 比 人々と「くらべる」こと。
 並 人がふたり仲よく「ならぶ」
 炎 火と火で「ほのお」
 明 日も月も「あかるい」
 鳴 鳥と口とで鳥が「なく」
 島 「しま」は海の鳥の住む山です。

森 木がもっとたくさんある「もり」
 言 三〇口から「ことば」の出る様子を
 信 表わした字。
 動 信用は人の言（ことば）でいちばん大切なことです。
 男 田んぼで力を出して働く人は「おとこ」です。
 東 重い物でも力を加えると、「うごく」木の向こうに日が見える方向が「ひがし」です。
 西 小鳥が巣にかえるのは日が「にし」に沈むころです。

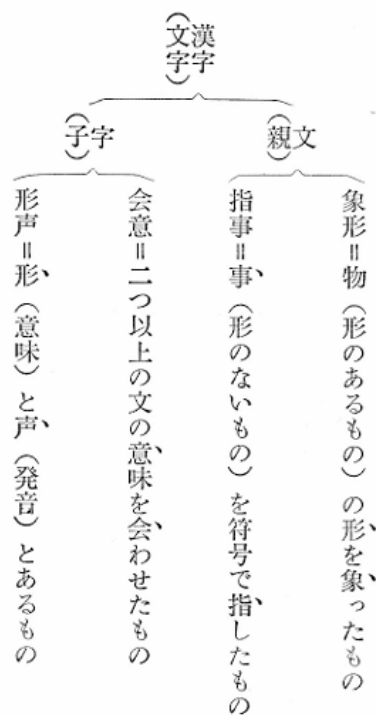
意味も読みもわかる字——形声

さて、形声とは「形と声」という意味の言葉です。形は意味のこと、声は発音のことで

す。つまり、意味を表わす部分と発音を表わす部分とを組み合わせで作られた字です。

例えば、銅 という字は、金が意味を、同が発音を表わしています。つまり、それは「ドウ」という金属だということで、意味も読みも知ることができます。そして、この形声字は、漢字の全体の九〇パーセントを占めていると言われます。

以上をまとめてみますと、次のようになります。



〈2〉部首の名前と役目

形声字を知ることが漢字学習の秘訣

いま述べたように、漢字の大部分が「形声」ですから、形声字というものでき方を知ることが、漢字学習の秘訣と言えます。

形声字は、必ず二つ以上の部品（部首）が組み合わさっていて、この部品の数は、数千字の漢字でも、全部で二百個ぐらいいしか使われていません。

この部品について、その意味や性質を、その根本から明らかにし、理解していきますと、初めて見る漢字でも、その部品を手がかりにして、意味からその読み方まで推量することができます。

それで、形声字のでき方を知り、その部品である部首の意味や性質を理解し、その知識

を活用して漢字を学習する方法を、「体系的・合理的漢字学習法」というのです。

この学習法によれば、漢字の持つ意味がよくわかり、よく覚えられ、忘れることがありません。



扁（へん）

漢字を左右二つに分けることができる場合、左の部分を「扁^{へん}」と言います。扁は、普通、

その字が何に関係があるかを表わしています。

1

人偏（にんべん）……人の意味の部首

休^レ人[・]が[・]木[・]の[・]そば[・]で[・]日[・]を[・]避[・]け[・]て[・]やす[・]む[・]。

仕^レ人[・]が[・]士[・]（[・]さむらい[・]）として[・]つか[・]え[・]る[・]。

音は士^シ。

玉

玉扁(たまへん)……………玉の意味の部首

環Ⅱ輪の形をした玉。↓「とりかこむ」。音は環^{カン}

珠Ⅱ朱^{あか}い玉。ただし今は色に関係なく使う。音は朱^{シュ}。

阝

小里扁(こざとへん)……………崖^{がけ}の意味の部首

陸Ⅱ崖の下は水ですが、上の土の部分は「りく」。

防Ⅱ四方に崖を作って守り「ふせぐ」。音は方^{ボウ}。

礻

示扁(しめすへん)……………神様の意味の部首

神Ⅱ申[・]は雷、天の神様のこと。音は申^{シン}。

社Ⅱ土地の神様のこと。

衤

衣篇(ころもへん)……………衣類(着物)の意味の部首

初Ⅱ着物を作る「はじめ」は布を断[・]つ。

忄

複Ⅱ復は重なる。裏布のある着物。「あわせ」。

立心扁(りっしんべん)……………心の意味の部首

性Ⅱ生[・]まれながらの心[・]。

情Ⅱ青は「美しく、すぐれている」という意。そこで清[・]らかな心[・]。

金

金扁(かねへん)……………金属の意味の部首

銅Ⅱ金と同じ色の同と呼ぶ金属。

銀Ⅱ金に次ぐ良^{ギン}と呼ぶ金属[・]。

月

月扁(つきへん)……………月の意味の部首

朧朧[・]……などこの部首の漢字は少なく、また普通見慣れないものばかりです。

月

肉月（にくづき）……………肉体の意味の部首

腹Ⅱ肉体の中で最も重[・]なった所。

腸Ⅱ易^{チヨウ}は長の代用。肉体の中で最も長いところ。

ノ木扁（のぎへん）……………稲の意味の部首

種Ⅱよくみのつて重い稲粒を[・]たねにします。

稲Ⅱ白^{ウス}にいれてついて食べる五穀の一つ。

獸扁（けものへん）……………獸類の意味の部首

猿Ⅱ袁^{エン}と呼ぶ獸類。ヤる。音は袁^{エン}

狐Ⅱ瓜^{コンゴン}々となく獸類。きつね。音は瓜^コ

巾扁（はばへん）……………布類の意味の部首

幅Ⅱ豊[・]かな布という意味。[・]はばに広い布です。音は畐^フ

巾

イ

帽Ⅱ曰^マは^マ。帽子の象形。目深くかぶる帽子です。音は冒^{ボウ}

行人扁（ぎょうにんべん）……………道の意味の部首

行Ⅱ[・]ハ[・]で、道の象形

街Ⅱ土[・]は[・]大[・]勢[・]通[・]る[・]道[・]。音は圭^{カイ}

三水（さんずい）……………水の意味の部首

波Ⅱ水[・]の表面にできる皮[・]です。音は皮[・]。ヒ↓ハ。

泳Ⅱ水[・]の中に永[・]くいる、[・]およぐ[・]。音は永^{エイ}

シ



旁（つくり）

漢字を左右に分けることができる場合、右の部分を[・]“[・]旁[・]”[・]と言います。形

頁

声字の多くは、旁が発音を受け持ちますが、次の旁は意味を受け持ちます。

大頁（おおがい）……………頭の意味の部首

頭Ⅱ頭は豆粒のような形です。音は豆。^{トウ}

額Ⅰお客さんと向かい合う頭の部分。ひたい。音は客。^{カク}

阝

大里（おおざと）……………邑（町）の意味の部首

郡Ⅱ邑の大きなもので君（治める人）のいるところ。音は君。^{クン}

郊Ⅱ邑と邑の交わるあたり。つまり、町はずれ。音は交。^{コウ}

彡

三旁（さんづくり）……………美しい飾りの意味の部首

杉Ⅱまっ直に美しく伸びた木。音はシ。^{サン}

形Ⅱ「がたち」の美しいこと。音は开。^{ケイ}

隹

旧鳥（ふるとり）……………鳥の意味の部首

雌雄Ⅱめん鳥とおん鳥のこと。

難Ⅱ莫^{タシ}と呼ぶ金色の鳥。手に入れがたい鳥。↓むずかしい。

リ

立刀（りつとう）……………刀の意味の部首

判Ⅱ半分に切った片方。証拠にするもの。今は印判の意味に使います。音は半。^{ハン}

力

力（ちから）……………努力する意味の部首

動Ⅱ重いものを努力して「うごかす」。音は重。^{ドウ}

努Ⅱ奴隷のように「努力」して働く。音は奴。^ド

欠

欠（あくび）……………欠入口を開いた形の部首

歌Ⅱ口を開いてよい（可）声を出して「うたう」。音は可。^カ

飲Ⅱ口を開いて食べものを「のみこむ」。

ル又

ル又（るまた）……………武器を持つ意味の部首

殺Ⅱ武器で敵を“ころす”。

役Ⅱ武器を持って戦いに行く。戦役。↓大変な仕事。



冠（かんむり）

漢字を上下に分けることができる場合。上の部分を“冠”かんむりと言います。また、“頭”かしらと言つこともあります。

ウ冠（うかんむり）……………屋根の形を表わしたもので、家の意味の部首

家Ⅱ家（豚）ぶたを飼う家。中国では、家々で豚を飼育していました。

安Ⅱ家に女がいると“安心”です。

穴

穴冠（あなかんむり）……………穴の意味の部首

突Ⅱ突が本字。穴から犬が“突然（いきなり）”出て来ました。

窓Ⅱ壁に穴をあけたものが“まど”です。音は窓そう（総）。

草冠（くさかんむり）……………草の意味の部首

草Ⅱ艸が本字。今は音を表す“草”くさがつかしました。

花Ⅱ化は変化、化粧の化。草から花が咲き出るのは大変化です。音は化カ。

竹冠（たけかんむり）……………竹の意味の部首

筆Ⅱ聿が筆を手にした形。竹の柄の“ふで”。

箒Ⅱ帚が箒を手にした形。竹ぼうき。掃は箒を手にして“はく”こと。

雨冠（あめかんむり）……………天気、気象の意味の部首

雪Ⅱ雪や雪は手の形。雨が手の上に載るようになったのが“ゆき”です。

𠂔

雲Ⅱ云が「くも」の形。雨を降らすくも。

発頭（はつがしら）……………両足をそろえた形の部首

発Ⅱ両足をそろえて、これから「出かける」ことを表わしました。

登Ⅱ両足をそろえて「のぼる」ことを表わしました。音は豆。^{トウ}

𠂔

老頭（おいがしら）……………老人の意味の部首

考Ⅱ老人は「かんがえ」深い。音は巧。^{コウ}

孝Ⅱ子供が老人を大切にすること。音は孝。^{コウ}



脚（あし）

漢字を上下に分けることができる場合、下の部分を「脚^{あし}」と言います。また、

「沓^{くつ}」と言うこともあります。

頭^{かしら}につけるものが冠^{かんむり}で、脚^{あし}につけるものが沓^{くつ}です。上を冠^{かんむり}と言えば、下を沓^{くつ}と言った方が合うのに、脚が多く使われています。

人脚（ひとあし）……………人の意味の部首

元Ⅱ二は昔の上。人の上の部分、「頭^{かしら}」のことです。元旦は年頭の日。

兄Ⅱ口やかましく言う人は「あに」。

皿

皿（さら）……………皿の形を表わした、皿の意味の部首

益Ⅱ皿は水を横にしたもの。溢の本字。皿から水が見えるのは「あふれる」。物があふれるほどあること。

盆Ⅱ分け皿。銘々皿。日本では「おぼん」。音は分↓ボン。

灬

連火（れんが）……………火の燃える形の部首

然Ⅱ犬の肉（ㇿ）を焼くこと。燃の本字。昔、中国では犬の肉をよく食べた。

照Ⅱ火をあかあかと燃やしてあたりを「でらす」こと。音は昭。シヨウ

心

下心（したごころ）……………心の変化した、心の意味の部首

恭Ⅱ共同で物事をする時の心。ていねいに気をつけてする心。音は共。キョウ

慕Ⅱ夕暮になって人を恋しく思う心。「したう」。音は莫。ボ



垂（たれ）

上から下の方に垂れた形を「垂^{たれ}」と言います。扁と冠を兼ねたような形をしています。

厂

厖垂（がんだれ）……………崖の意味の部首

原Ⅱ厂から泉の噴き出る所。源（水元）みなもとの本字。後、崖の上の広場Ⅱ高原。

庄Ⅱ厂は土を「おしつけ」ています。がけ

厖垂（まだれ）……………広い家という意味の部首

店Ⅱ人が自由に出入りできる家。みせ。音は占（点）テン。

庫Ⅱ車が自由に出入りできる家。車庫。今では、金庫、倉庫、など、物を
入れる所^{ところ}の意味に使います。

疒

病垂（やまいだれ）……………病気の意味の部首

疲Ⅱ表面（皮）的な病気「つかれ」。音は皮。ヒ

痛Ⅱ体を通りぬける病気「いたみ」。音は通。ツウ

戸

戸垂（とだれ）……………開き戸のこと。門の左半分の形で戸の意味の部首

肩〓開き戸のように動く「がた」。月は肉月。

房〓四方に戸のある部屋、音は方。ボウ

屍（しかばね）……………人の意味の部首

屋〓人の至り止まる場所、「いえ」。家屋。

屈〓昔の家の出口は小さな穴になっていたので、人が出る時、「かがむ」。



遶（によう）

扁と脚とを合わせたように、とりまいた形を「遶によう」と言います。遶とは、「とりまぐ」という意味の字です。

進

進遶（しんによう）……………イ（行）と止（止）とを合わせた字で、道を行く

意味の部首

速〓一本一本運ばずに束にして運べば「はやい」。音は束。ソク

連〓車が道を「つらなつて」進む。

延遶（えんによう）……………道を行く意味の部首

延〓道を行くのを止められて、時間が「のびる」。音はノの変化エン。エイ

廻〓道を回って行く。音は回。カイ

走

走遶（そうによう）……………走る意味の部首

趣〓物を取ろうと急ぎ走り「おもむく」こと。今は、味わいの意味の「おもむき」という意味も。音は取。

越〓武器の戌まさかりを持って「のりこえ」て進むこと。音は戌。エツ



構（かまえ）

外側を囲むような形のものを「構」と言います。「凵」や「凵」のように欠けているものもあります。

国構（くにがまえ） …………… 周りを囲む意味の部首

囲Ⅱ周りを「かこむ」こと。音は井^イ。

団Ⅱひとまとまりになったもの。寸はきまり。きまりあるまとまり。

箱構（はこがまえ） …………… 箱の意味の部首

匪Ⅱ箱に非^{あやむ}る箱↓四角でない箱↓丸い箱、後に「篋」となる。

医Ⅱ矢を入れる箱↓ゆぎ。今は、醫の略字。醫は、病気を退治する薬用酒。

医も爰も武器。

門

門構（もんがまえ） …………… 門の意味の部首

問Ⅱ門に口を寄せて「たずねる」こと。音は門^{モン}。

聞Ⅱ問^{たず}ねられたのに対して、耳を傾けて「きく」こと。音は門^{モン}。漢音はブン。

氣構（きがまえ） …………… 蒸氣の意味の部首

氣Ⅱ蒸氣のこと。今では、「目に見えない力」という意味に使われます。元

氣。天氣。

汽Ⅱ水蒸氣のこと。

行

行構（ぎょうがまえ） …………… 道の意味の部首

術Ⅱ道（方法）のこと。剣術Ⅱ剣道。音は朮^{ジュツ}。

街Ⅱ人の大勢通る道のこと。街道。音は圭^{ケイ}。圭は糞。

戈

戈構（ほこがまえ）……………武器の意味の部首

戦Ⅱ武器を持って「たたかう」こと。音は単^{セン}。

武Ⅱ戈を止める。戦争を未然に防止するためのもの、という意味。

式構（しきがまえ）……………標識（しるし）という意味の部首

式Ⅱ工作する時の目じるし。びな型^{ビナガタ}。手本。

代Ⅱ「かわり」だというしるしを持った人。代理人。

包構（つつみがまえ）……………包む意味の部首

包Ⅱ巳（子供の象形）を「だく」こと。今の抱（だく）の本字。

泡Ⅱ水が空気を包んだもの。「あわ」。

弋

勹

〈3〉未知の漢字を推理する基礎知識

今までのような漢字の学び方では、まだ学習したことのない漢字は、読めないもの、意味のわからないもの、と決まっていました。

しかし、「漢字の成り立ち」を知り、漢字の大部分を占める「形声字の構成法」がわかれば、初めて見る漢字でも、どういう意味を持ち、何と読む字であるかが、おおよそ見当がつくはずだ。

こういう学習の仕方では漢字を学習していくと、漢字がよく覚えられるだけでなく、推理する力がつきますので、ほんとの意味で、あらゆる学問を進めていくための基礎ができるわけだ。

漢字力がなければ、読書力が低くて、どんな学問を進めていくのにも困りますが、ただ



解字は漢字学習を楽しくやさしくする

中には、また世の学者たちの賛成を得ていないものもあります。

例えば、『英』や『易』や『董』などの解字は、今まで誰も説いていない解釈で、どんな書物でも見ることはできません。しかし、その解字は、わたしが最も妥当だと考える解釈であり、また、このように解釈しなければ、漢字学習の合理化、能率化はない、と確信するものです。

さらに、ここで皆さんに知っておいていただきたいと思ひますことは、わたしがこ

漢字の意味や読みを丸暗記したというだけで、既存の知識を応用して、未知の分野を開拓していく力がなければ、これも困ったものです。

昔の賢人は、「一を聞いて十を知った」と言っていますが、漢字でも一字を知れば十字がわかるような、そういう『推理力』がほしいではありませんか。

わたしが提唱する漢字学習法は、そういう能力を養うことができる学習法で、今までのような、ただがむしやりに覚えさせる学習法とは大変に違います。

ただ、この漢字に関する学問は、近頃、にわかに進められたものですから、まだ定説と
いうものはありません。その上、字源の全くわからない漢字もかなりあります。

ですから、ある漢字について字源をくわしく知りたいと思って、いろいろの解説書を調べてみますと、書物によってまちまちであることがすぐわかるでしょう。

ここに、わたしが述べますことも、わたし個人の研究に成るものかなりあって、その

こに解字する目的です。それは、漢字の字源を学問的に解明することではなくて、漢字学習を楽しく優しいものにすることだ、ということです。

したがって、学問的にどんなに価値があっても、理解しにくいものであったら、ここまでは全く無価値であり、反対に、額面的には全く無価値であっても、漢字学習に役立つものは、ここでは進んで取り入れました。

「主」は周囲を照らす「あかり」

例えば「主」という字をよく見て下さい。これは燭台にあかりがともっている所を表わした字です。王が燭台で、上の点が「あかり」です。

夜を明るく照らす「あかり」は、家の「中心」に置かれます。人々はこれに向って「集まり」、ここに「どどまり」ます。「あかり」が本義で、「中心」「集まる」「どどま



る」の意味に使われる部首です。

あかりは「シュウシュウ」と音を立てて燃えるので、この字の音は「シュウ」です。

今では、短く「シュ」と発音されます。

次の漢字は、主を旁にした文字です。扁と組み合わせる意味を類推した後に、説明を読んでもください。音は、シュウ↓チュウ、

柱

家の「中心」となる木の意味で、「はしら」のこと。

注

川の水が「中心」である海に「集まる」という意味で「そぞぐ」こと、また、「水を集中させる」意味で「注水」とも使われます。「注目」は、「目を注ぐ」とも「目を集中させる」とも解けます。「注意」も「心を注ぐ」「心を集中させる」。

「言葉を集める」という意味で、むずかしい言葉を説明する言葉を集めること。

駐

馬が「集まり」「とどまる」こと。それ「は軍隊がとどまる」時に起こる現象です。今では、単に「とどまる」意味に使われています。中流、駐車、駐在。

住

人が「集まり」「とどまる」こと。↓「ずむ」。音はシュウ↓ジュウ。

「𦵏」は「わずか」

𦵏は「𦵏」の略字です。戈は「ほこ」の象形で武器です。これが「たて(干)」と合わせて「干戈」といい、「戦争」の意味になります。𦵏は、戈を交える、つまり「戦う」とを表わしています。部首としては、戦い傷ついて「人が少なくなる」ということで「わずか」「少ない」という意味に使われます。音はセン。

浅

「水が少ない」ということで「あさい」という意味に使われます。

餞

わずかな食事という意味で、送別の宴を、送る側が謙遜して「餞」と言います。餞別。

銭

「小さなお金」「わずかなお金のこと。一円の百分の一を表わした単位。金銭。」

賤

“財産が少ない”ということ、 “身分がいやしい” という意味に使われます。

残

歹は、骨の一部を表わした部首。 “動物が食べのこしたわずかな骨の一部”ということ、 “のこる” という意味を表わした字です。 歹と匕（人が倒れた形。 “化を参照”）とで「死」になります。 残金、残月、残念。

箋

便箋や通信箋の箋です。 “わずかな竹” という意味ですが、昔紙のなかった時代は竹簡（竹のふだ）にメモしました。

栈

栈橋の栈です。 “わずかな木” という意味で、栈橋は粗末な橋を言います。

踐

細かく足を運ぶことで、 “ていねいに足で踏む” という意味を表わしています。 “行なう”。

盞

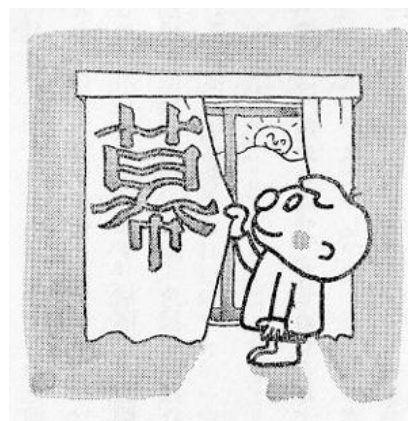
小さな皿という意味の字で、 “ざかずき” のことです。

「莫」は「ダぐれ」

莫は𦍋で、草の “茂み” の中に、太陽が今 “かくれ” ようとしているところを表わした字です。 つまり、 “ダぐれ” を表わした字で、今の「暮」の本字です。

いまでは、太陽が隠れて見え “ない” ということで “ない” という意味に使われたり、草原の “果てもなく広い” という意味に使われたりします。

“ダぐれ” が本義で、部首としては “かくれる” “ない” “広い” の意味に使われます。 音は茂^ボです。 呉音は茂^モ。 転じてバク。



幕

“ダグれの様に暗くなる布”という意味の字です。“カーテン”のこと。カーテンをすると、昼でもダグれのように暗くなります。

模

手さぐりする時は、手の感触から、心の中に“それらしい”物を想像します。「模倣」は“それらしく”まねることです。

物を“まね”て作る時の“木型”が本義の字です。模と木との合字です。「型」は“土で作った型”^{かた}のこと。“竹で作った型”は「範」と言います。

模も型も範も、すべて“かた”であり、物を作る時の“お手本”です。模型。模範。

模 募 慕 墓 暮

莫が別の意味に使われることが多いので作られた“ダグれ”専用の字です。日をつけて、“ダグれ”専用の字であることを示したものです。歳暮、暮秋。人が“土に隠れる”という意味の字です。人生の“ダグれ”、終着所を表わしたと見てもよい。 “はか”。

“ダグれの心”という意味の字です。夕暮れになると、何となくさみしく、人恋しくなるものだから、“ダグれの心”という字で人を“したう”気持ちを表わしました。

“ダグれの力め”^{つと}という意味の字です。夕暮れになると、放牧していた家畜を“呼び集める”のが仕事です。“呼び集める”こと。募集。

夕暮れになり、物が見えない時には“手”で“さぐり”ます。“手さぐり”が本義の字です。「暗中模索」は、暗やみの中を手さぐりして索める^{もと}こと。

膜 漠

草原の果てもなく広い意味の莫と水との合字です。『広々とした海原』が本義ですが、今は『海原のように広い砂原』の意味に使われます。砂漠。幕は『物を隔て』たり『物を囲つ』たりします。その意味の幕と肉月との合字です。肉体の中で物を囲つたり、隔てたりする役をしている物には、この字が使われています。横隔膜、腹膜、肋膜、鼓膜、網膜、粘膜、角膜、結膜などいろいろあります。

「責」は『お金を返せ』とせめること

責は束を平たくおしつめた字。束は木に口（どげ）のあるもの。これにリ（刀）を加えると刺（さす）になります。

責は、貸したお金を返さないと刺すぞと言って、せめたてゐることです。これは、人と

して当然すべきことを要求することですから、『義務』という意味に使われています。音は束。^{セキ}

漬

『水責め』という字で、『水につける』こと。今では、水に限らず、みそ漬け、かす漬けなどとも使います。

績

『糸を責める』という字で、『糸をつむぐ』こと。紡績。糸をつむぐ様は、せわしなく責めたてるようなのでこう言うのです。

また、その結果の『仕上がり』『できばえ』という意味にも使われるようになりました。成績、功績。

積

『責任として納入すべき稲』という字で、今の『租税』の意味の字です。税として納入する稲はつんで保存しておくので、『つむぐ』という意味になりました。また、『積まれたかさ』をも意味します。容積、体積。

「且」は「物を積み上げる」こと

地上に、同じようなものがいくつも「積み重っている」形を表わしています。だから、「重なる」「重ねる」という意味に使われます。「また」という意味で、「かつ」と読まれることもあります。（読み且書く）「その上に」という意味です。音はソ。

租

「積み重ねられた稲」という字です。「積」で述べたように、それは「責任として納入すべき稲を表わしていますので、今の「税」と同じ意味になりました。

本当は租が積の意味で、積が租の意味の字です。意味が取り換わっているのですから、おもしろいではありませんか。

粗

「積み重ねられた米」とは「玄米」を言います。長く貯蔵する税用の米は、もみがらをつけたままなので「粗」ですが、家庭用の米はもみがらを

取った玄米ですから「粗」です。玄米は貯蔵できますが、精米にすると長くもちません。それで玄米を「粗」と言うのです。玄米を食べるのが「粗食」です。玄米食では副食が不要です。

「重なった神様」とは、亡くなった父、そのまた父、そのまた父の父、ということです。つまり、先祖代々の神様ということですよ。

「力を重ねる」とは「だすける」ことです。援助、助力。音はソがなまってジヨ。

祖 助 査

「書物を重ねる」ことで、たくさんの書物について「しらべる」ことです。昔は、木や竹のふだに字を書いて、これを巻物としました。音はソが変化してサ。

組

何本もの「糸を重ねて編んだくみひも」。糸「糸を組み合わせることから、現在では、単に「くむ」「くみ」という意味に使われています。組織、組閣。

「兪」は「よりすぐる」

「兪」は、シユウ人クチと口と人の会意字です。人シユウは公で、龠ユウ（龠＝集）や众ユウ（众＝衆）と

同じ言葉で、「同類が集まる」こと。

「人が集まって各々意見を述べる」ことです。それによって、最も良い考え方を「よりすぐる」のです。古い言葉に「公卿兪議」という言葉があります。公卿が全員集合してそれぞれ意見を述べる、国の大事を決める会議のことです。兪は兪の古い字。

検

兪が話し合いによる意見の「よりすぐり」であるのに対し、書物による「記録のよりすぐり」です。「しらべる」こと。「査」と同じく、木は「書物」を指しています。

験

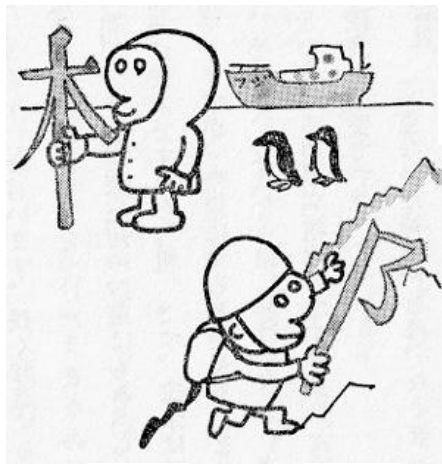
「馬をよりすぐる」こと。馬を走らせ、ためさないと、よりすぐることができません。それで「ためす」こと。試験、実験。

儉

人の生活に「必要なものだけをよりすぐる」こと。つまり、「むだを省く」こと。儉約、節儉。

険

「よりすぐった崖」とは「特にけわしい崖」のこと。だから、「あぶない」という意味に使われています。



検（しらべる）と険（あぶない）はよく取り違えられます。「冒険」は「あぶないことを冒す」ことですから「険」、「探検」は「探りしらべる」ことです。ですから「検」だということに考えて使うことが大切です。

「青」は「美しくすぐれている」意

青の古い字は青^{セイ}です。生^{タン}と丹の合字です。丹石とは赤い石ですが、これから青の染料を取るのに、丹石より生産する、という意味で「青」という字を作りました。

丹（あか）と青とは色の基本なので、絵の具や絵のことを「丹青」と言うことがありますが。音は生^{セイ}。呉音は生^{シヨウ}。

清

水が青くすきとおって見える状態。水の美しく、すぐれている状態です。

晴

日^ニが照^テって、空^{ソラ}が青い状態。天気^{テンキ}のすぐれて良い状態です。

精

玄米（粗）について、黒い皮を取って白く美しくなった米のこと。精米。玄米は「あらづき」、精米はよくつきますので、あらづきを「粗製」、ていねいにつくるのを「精製」と言います。

情

「美しきすぐれている心」とは「思いやりの心」です。人情。情愛。

請

「真情^{マキョウ}をこめて言^{イハ}つ」こと。「ま心をこめて言^{イハ}つ」↓お願い。

静

争いのおさまった後の美しくすぐれた状態。嵐のあとの「しずけさ」。

静寂。閑静。

「**経**」は織機に張られた「たて糸」

「**経**」の古い字は𦉰です。織機（はた）に張られた「たて糸」の形を表わした字です。「たてに通る」 「まっすぐ」などの意味があります。音はケイ。呉音はキョウ。

「たて糸」です。織機は、これに緯（よこ糸）を往復させて布を作ります。よこ糸は切れても、簡単につながますが、たて糸が切れたら大変です。基になる大切な糸ですので、「**經典**」「**経文**」というような「大切な」 という意味

や、「**経営**」のように「計画」し「おさめる」意味にも使います。

地図の上に、南北（たて）に引かれた線を**経線**と言います。東西（よこ）を**緯線**と言います。

径 山道はくねくね曲がっていますが、所々に、直行する「**小道**」があります。これが「**径**」です。「**近道**」でもあります。

「**直径**」とは、円周に対して、「**直行する近道**」 という意味の言葉です。

茎 草のまっすぐに伸びた部分は「**ぐき**」です。

脛 肉体の中でまっすぐに伸びた部分は「**すね**」です。

頸 頭部でまっすぐに伸びた部分は「**ぐび**」です。

「**すじ**の病気」、筋が引きつれる病気で、「**痙攣**」ケイレンと言います。

瘕

「**径**を走らせることのできる車」のことで、「**軽車**（軽快な車）」のことで

軽

す。今では車に関係なく「**軽快**（かるい）」という意味に使われます。

「韋」は、人がすれ“ちがう”

韋は、止（足の裏の象形止）の反対の形の止とそれを逆にした形、𠂔とを合わせたものです。足の向きが反対になっている二つの足で、“人がすれ違った”ことを表わしています。

今の「違」の本字です。部首としては、“ちがう”という意味です。音は𠂔¹。

違

𠂔が「道を行くこと」だから、『道を二人の人がすれ違ふ』という意味の字です。今はただ“ちがう”という意味にしか使われていません。

“ちがう人”という意味の字で、普通の人とは違った“えらい人”のことです。「偉人」のこと。

衛

行は𠂔で道の象形。『道を人がすれちがう』のは、「道を行ったり来たり“して守っている”ことです。英語のパトロールです。

緯

織機の“行ったり来たり”する糸のことで、それは「横糸」です。たてに張られた糸を、横糸が行ったり来たりして、布が織られます。

地球上の位置を示すのに、南北に両極を貫く線を引き、イギリスのグリニツジ天文台を通る線を〇度とし、三六〇度に分けたものを「経線」と呼び、東半球と西半球とそれぞれ一八〇度に分け、東経、西経と呼びます。

経線に直角に交わる横線が「緯線」です。赤道を通るものを〇度とし、北極までの九〇度に分けたものを北緯、南極までの九〇度に分けたものを南緯と呼びます。

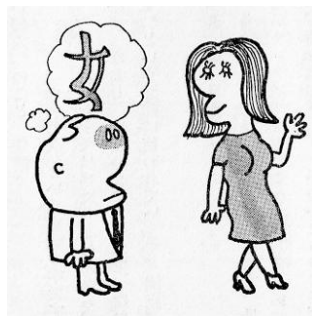
「喬」は「高くて曲がったもの」

喬は天と高との合字です。天は𠂔で、頸の曲がった人の象形です。「高くて、曲がっ

た・という意味です。 高くて、頭の方が曲がっている松の木が「喬松」です。音は、
コウ ヨウ キョウ
 ko-yo-kyo.

橋

川にかけられた 高くて曲がった形の橋 のことです。俗に言う「たいこ橋」。アーチ形の橋です。力学的に丈夫なので、中国にはこの形の橋が多いのです。



嬌

背が高い 勢いの良い馬 のこと。勢いのよいことから、おごりたかぶる 意味に使われています。 驕慢。

驕

矯

曲がった矢 という意味の字です。曲がった矢では当たりませんから、必ず「なおし」て使います。それで、「なおす」という意味に使われています。 矯正。

「易」は「日あたりがよい」

易は☺で、日とシと丁の合字です。日光がサンサンと降りそぐ意味の☺に、音を表すㄱがついたものです。「日あたりがよい」という意味の部首です。

丁の音は、ス・ヨ。これが濁ってㄱ。単にㄱとなることもあります。

湯

「日あたりのよい所にある水」ということで、ゆ のこと。今は、火であたためたものを「湯」と言いますが、昔は火を起こすことが大変で、太陽熱を利用したものと思われま

陽

『は崖でしたね。』日あたりの良い崖のことです。山の南側は、日あたりの良い斜面になっていますから、『山の南側』を『陽』と言います。中国山脈の南側地方を「山陽地方」と呼ぶのはこれです。

陽は、南斜面のことですから、『日なた』の意味から、『日そのもの』を指すようになり、『太陽』という使い方が生まれました。

『日あたりの良い土地』という意味の字です。「農場」は『日あたりのよい、農業に適した土地』ということになります。

場

場は、単に『ところ』の意味に使われていますが、もとは『良い所』『適した所』という意味に使うのがほとんどでした。つまり、『運動場』は、『運動するのに良い所』というように。

腸

この易チヨウは長チヨウの意味を借りたものです。肉体の内臓の中で、最も『長いところ』に名づけたものです。

「甬」には『まわる』意味がある

用は、牧場にはりめぐらした柵の象形で、『はりめぐらす』が本義の字です。「用心」は、『心も用いる』と解いていますが、『心をはりめぐらす』と解くのがよろしい。柵はどこに破れがあっても、中の牛は逃げてしまつて役に立ちません。どこにも欠陥のないように、すみずみまで、心をはりめぐらすのが「用心」です。柵が牧場にはなくてはならぬものなので、『役立つ』『使う』の意味に使われています。

甬は、柵の上に、人の頭が見えている形で、柵のまわりを『見まわる』という意味の字です。マは子の頭の部分です。

踊

「まわる」意味の「踊」と「足」との合字です。「ぐるぐるまわりながらおどる」
「どり」のことです。

「水が踊る」ように「わき出る」こと。地中から、地下水が踊るように「
わく」ことです。

涌

涌の意味の「涌」と「力」との合字。泉の湧き出るように、自然と心の中にみなぎ
ってくる力が「勇氣」です。たまり水のように簡単に尽きることのない、使
っても使っても溢れてくるような力です。勇敢、武勇。

通

「柵にそって道を行き来する」という意味で作られた字です。柵があれば、
安心して「とおれ」ます。「とおる」こと。また「うまくいく」という意味
にも使われます。

桶

「まわり」が「木」で囲まれている、という意味の字ですから、「おけ」のこ
とだとわかるでしょう。用の「はりめぐらす」意味を取って、「木をはりめぐ
らして作ったもの」と解いてもよろしい。

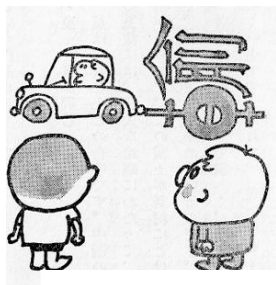
痛

「病氣を通信する」のが「いたみ」です。体中に「はりめぐらされた」神
経が、病氣であることを知らせるものです。それは、体を貫通するような「
いたみ」です。

「愈」は「人」と「舟」と「く」の合字

月には、月と肉月と舟月とあります。肉も舟も簡略にすると月になってしまっからで
す。

「川に舟を集める」という意味になります。つまり、「船で物を運ぶ」という意味の字



輸

です。音は舟のシユウですが、つまってシユ、さらに省略されてユ。

舟でなくて、車で物を運び、ことです。「運輸」

「輸送」などと使います。

「輸出」「輸入」は、船で運び、のですから、

「輸出」「輸入」の方が字義にあっています。

諭

「言葉を送り届ける」という意味の字です。道理の分からぬ人、間違ったことをしている人に、正しい道を分かるように「おしえさす」ために言葉を送るです。

愉

「心を運び」という意味の字です。心を舟にのせて悠々と遊べたのしいでしょう。愉快。

癒 儉

「病気を運び去る」ことです。病気が治ることです。治療。

「人のものを運び去る人」という意味です。ぬす人です。音は、舟がなまってチュウ、また盗と同じにも発音されます。芥川竜之介の小説に『儉

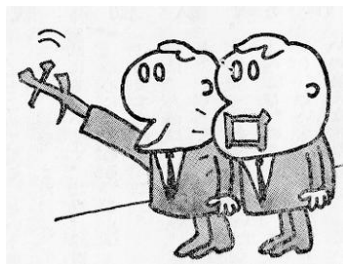
盗』という作品があります。

「董」と「董」は同じ

董は、黄と土との合字です。中国の黄河の上流には、広大な地域にわたって、黄土層があります。この黄土が黄河にたけ込んで、いつも黄色く染めているのです。

黄土は、質が至って細かく、粘って扱いにくい土です。それで、黄色い土、という字で、「細かい」「扱いにくい」という意味を表わしました。「少ない」という意味にもな

ります。音は黄が変化してカン。これに土が加わってタンともなります。



招

口で呼び寄せるのが「召」であるのに対して、手まねきをするのが「招」です。召は目下の人を呼び寄せるのに使い、招はお客を「まねく」のに使います。今では、召も招も、口や手に関係なく使います。

「召」は「刀を持て」ということ

殿様が、「刀」と口にするだけで小姓が前に進み出ますので、刀と口とで「めす」（召し寄せる）の意味を表わしました。音は刀が変化してシヨウ。

勤

「細密な点にまで心を配って『力^{つと}める』」ことです。力は「努力」の力でつとめること。

謹

細密の意味の董と言との合字。言葉を細密に使うこと。言葉をつつしむことです。心をつつしむのが「慎」です。

嘆

「ああむずかしいなあ」と口から思わず声の出ることです。なげくこ

難

扱あつかいにくいものと” という意味で “悩なやみ” ひどくむずかしいこと” を
表わしています。艮は根元の意味。艱難。
堇タンという名の “黄色い鳥” です。なかなか手に入れ “がたい” 鳥なので、
“むずかしい” という意味に使われることは前に述べました。音は、堇タンが変
化してナンになりました。

艱

● ●
 “扱いにくいもと” という意味で “悩み”
 “ひどくむずかしいこと” を
 表わしています。 艱は根元の意味。 艱難。

饅

“食べ物が少ない” という意味の字です。飢饉。

紹 昭 照

人を呼んで、人と人を結びつける、という意味の言葉です。人を「引き合
わせる」こと。紹介。

「日の光を召まねき入れる」という意味の字で、「明るい」「照り輝く」こと。

「火が太陽のように赤々とあたりを「でらす」こと」です。

「萑」は「鳥の鳴き声」

萑の本字は萑カです。艹（草）と隹（鳥）とカとの合字です。草むらで、鳥がカンカンと「しきりに」鳴くことを表わした字です。𪔐は、おしゃべりの「盛んな」意味があります。これがこの字の音を表わしています。

部首としては、「盛んに」「しきりに」「熱心に」「心をこめて」という意味です。

観 勸 権 灌

「心をこめて見る」という意味の字です。観察。また、「ながめ」という意味にも使います。壮観、外観。

「熱心にすすめる」こと。「心をこめてすすめる」こと。

欠は、人が口を開いた形。喜びが大きくて、思わず「声を出す」ことです。思わず「わあっ」と言いたくなるような「よろこび」のこと。

「萑カン」という名の木。生長する勢いの盛んな木なので、「勢いの盛んな」ことを表わすようになりました。

水がしきりに音を立てて流れ込むこと。萑は水の流れ込む音を表現しています。灌漑。



鑑

す。上から見おろすので、「見おろす」部下を見張る。意味になりました。音は看^{カン}です。
 金属製の鏡です。昔の鏡は金属の板を磨いて作りました。人は鏡を見て、初めて自分の姿が見えます。それで、自分を省みてなおすための「手鑑」の意味にも使われます。

「監」は「水鏡を見る」

監は臣と人と皿との合字です。臣は^{ミツ}で、目を大きく開いた形です。「見張る」が本義で、「見張り人」つまり「家来」の意味に使われます。

皿に水を満たし(皿)、それに人が顔をうつして見入る、のが監です。つまり、「水鏡して見る」のが監の本義で

檻

艦

濫

覧

囚人を入れて監視する、木で作った「おり」のことです。檻には、格子があるので、「格子」の意味にも使います。

「格子」のある「いくさ舟」のことです。敵が攻め入れないように格子で囲い、その間から弓を射ます。

水鏡の水が「外に溢れる」ことを表わした字です。「氾濫」は、川に水が外に溢れることです。だから、「物事の度が過ぎる」という意味にも使われます。濫用、濫読(現在は「乱読」と書きます)。音は監^{カン}が変化してラン。

上から下を見おろす意味の監の省略したものに見をつけて作った字で、「見おろして見る」ことです。身分の高い人の「見る」ことに使います。観覧、展覧会。

「褻」は「うまくてき上る」

褻の本字は褻です。衣と𦑔^{カン}と𦑔の合字です。𦑔の古い形は𦑔で、人が「土仕事」をして
いる形です。衣類を脱いで口口にわいわいと勝手なことを言いながら土仕事をするこ
表わした字です。そうすると、「仕事かうまきはかどる」というわけで「うまく仕上がる」
という使い方や「わいわいさわぐ」という使い方があります。

釀

「酒がさわがしく発酵して、うまく仕上がる」という意味で、酒のでき上
ることを表わしました。

讓

酒がさわがしく発酵した後にはうまくてき上るように、人も十分に言いたい
だけ言い合えば、自分の気持ちもおさまるし、相手の立場もわかって「ゆずる」
気持ちが生まれ、話し合いが成立します。讓（ゆずる）という字が、思い切り
主張する意味の字でできていることは意味深く思われます。

嬢 穰

「稲がうまくてき上る」こと。つまり「みのる」ことです。

釀造や豊穰の意味の褻と女との合字です。「りっぱに一人前に成熟した
女」というわけで、「良い女」という「娘」と、発音の同じ言葉ですが、今の
使い方では、「娘」は「むすめ」、「嬢」は「おじょうさん」というように使わ
れています。

「及」と「𦑔」は同じ字

及は乃（人）と又（手）との合字です。前を行く人をうしろから追いかけて手をかける、
という意味の字です。「追いおよぶ」が本義の字です。「うしろから追う」「つかまえ
る」などの使い方があります。音はキュウ。

級 扱 吸 汲

“水をつかまえる”とは、水を“くむ”ことです。
 “口でつかまえる”とは、口で“ずう”ことです。
 “手でつかまえる”という字で、物を“取りあつかう”という意味に使います。

“取り扱いやすいように置かれた糸”という意味の字で、“品分けされた糸”を言います。織機を織る時には、糸を品分けして置かなければならないからです。今では、糸に限らず、“品分けする”“分類する”という意味に使います。

急

ヨは又と同じ“手”の象形ですから、与と及は全く同じ字です。“人をうしろから追う時の心”という字で、“いそぐ”ことを表わしたものです。

「戠」は国境に立てられた碑文

戠は、音と弋との合字です。弋は、土地の境界に立てる“目じるし”の木の枝の象形です（式構の項参照）。音は、“言葉”または“文字”を意味します。戠は、境界を明らかにするために設けられた、国境であることを明書した碑の類を言います。“物事を明瞭にする”という意味の部首です。音は弋^ヨ。

職

“耳で物事を明瞭に聞き分ける”という意味の字です。何の仕事でも、人の言うことを確かに聞くことが、最初で、しかも大切な仕事です。それで“仕事”という意味を表わしたものです。職人、職業。



識

「言葉を明確にする」という意味の字です。どんな学問でも、言葉の意味があいまいだと、しつかり進めていくことができません。そこで、「言葉の持つ意味をはっきりさせる」という意味の字で、物事を「しる」ことを表わしました。

織

「糸を明確にする」という意味の字です。織機を織る時には、糸にしるしをつけて区分けしておくことが大切です。だから、「糸を明確にする」という字で「おる」ことを表わしました。

「寸」は拠るべき「基準」

寸はで、手の象形に、脈所の位置を示した・を加えた指事です。手首から脈所までの距離を、短い長さを測る時の単位とし、これを「寸」としました。拠るべき「基準」

「きまり」の意味に使われます。

討

「きまりにしたがって議論する」ことを「討論」といいます。論旨をおし、相手の欠点を的確にとらえて、これを攻撃することが大切です。

導

人を導くのに、拠るべき基準のあることを表わした字です。単なる思いつきやあいまいな考えで行う指導はほんとうの指導とはいえないわけです。

守

「家庭に拠るべき基準がある」のは、それを「まもる」ためです。家にきまりがあつて、家族がそれを忠実に「まもる」時は、家が栄え、家族も幸福になります。

尋

「寸は手ですから、尋は、左と右とを合わせた意味の字です。昔は、「左手から右手までの長さ」を、長い長さを測る時の単位としました。それで、尋に寸を加えて、「両手を広げた長さ」が長さの単位であることを表わしました。

わが国では、両手をひろげるといふことで、これを「びろ」といいます。
深い海のことを「千尋の海」といいます。

「寺」は「官庁」が本義

寺は、国の基準を決め、それを取り行なう所をいうのが本義です。仏教が伝来した時、僧侶を官の役所に置きましたので、「官庁」の意味の「寺」が「おてら」の意味に使われるようになりました。

昔は時を太陽で計りました。つまり、日時計です。それで日と基準の意味の寺とで、「とき」を表わしました。

言葉にきまりがある」といふことで、文章表現の上に、一定のきまりのあるものをいいます。漢詩・和歌・俳句などは詩といえますが、形式的に

詩 時

定の約束のない自由詩は、詩ではないことになります。

祭礼の犠牲のために、役所で飼育している「とくべつ」の牛のことです。
とくべつの牛ですので、今の使い方が生まれました、音は「トク」。

待 特

「役所へ行く」といふ意味の字です。役所に願い出て、その処置を「ま」つことですが、役所というところは、本来、人を「またせる」所なのでしよう。

「方」は「四つの方角」

方は、耕作の時に使う「すき」の象形ですが、今は「方法」といふ使い方と「方角」といふ使い方と「四角」の意味に使う使い方が多く、本義の使い方は見られません。

坊 防

「四方が崖」という意味の字です。敵を「ふせぐ」には最も都合の良い所です。

四方に土手を築いて建てた家です。僧院は四方に土手または土塀をめぐらしているのので、「僧院」のこと。僧の住む家を「坊」というので、僧を「坊主」というのです。子供を「坊っちゃん」というのは、頭が「坊主頭」だからです。

「四方に女がいる」ので、気が散って仕事が「さまたげられる」という意味の字です。

「四方から糸を集めて一本により合わせる」ことを「つむぐ」といいます。体の四方にある肉は「脂肪」が多いので、「あぶら肉」を「肪」で表しました。ついでにいいますと、「脂」は旨い肉^{うま}という意味の字です。さしみ

肪 紡 妨



芳

でいえば「どろ」にあたります。

「四方に草がある」ので美しい花が咲きにおっている、という意味の字です。美しい

「がくわしい」という意味を表わしています。

「畠」は「だからもの」

畠は「畠」で、「りっぱな酒器」の象形です。これがある家は財産のある家に決まっていますので、「財産」「だから」の意味に使われます。音はフク。

富

「富のある家」という意味で、「財産」を表わした字です。音は畠ですが、フと発音します。富裕、豊富、富豪。

福

副

●神様の授ける財産 という意味の字です。目に見える物質的な財産ではなくて、精神的な財産のことです。目に見えない神様の授ける富は、やはり目に見えない「心の富」です。「心の富める人は、幸いなり」ということです。「財産を刀で二つに分ける」という意味の字です。財産を二つに分けて、一つは「万」に備えるのです。これを「副」というのです。つまり「控えのこと」です。

「副将」というのは、大将に万一のことがあつた場合の控えという意味です。

幅

「ぜいたくな布」という意味の字です。それは布幅がたっぷりゆとりがありますので、「はば」という意味に使われますが、「はばの広い布」が本義です。

「復」は「重ねる」

復の古い形は𠔁で、𠔁は、二つ重なつたような形をした酒器の象形です。𠔁は、止の下の向きの形です。足の意味の字。

復は、前に通つた道を重ねて通る、という意味の字です。普通、「重ねる」という意味に使われています。音はフク。

復

「前に通つた道を重ねて通る」という意味の字で、復に、さらに、道の意味のイがついた字です。「行つた道を通つて「かえる」」ことです。

(返る) は元の所へ「かえる」こと。

(帰る) は本来いるべき所へ「かえる」こと。

(還る) は別の所を通つて「かえる」こと。

(復る) は同じ道を通つて「かえる」こと。

複

「布を重ねて作った着物」という意味の字です。夏の着物を「ひとえ（単衣）」というのに対して、「あわせ」といいます。「単・複」を、英語のシングル・ダブルにあてることもあります。

「行ったり来たりする」意味の「復」と香とで、「良い香がただよう」という意味になります。馥郁。

馥

覆

「西は、ふたのある容器の象形です。つまり、西が「おおい」の意味の字です。「おおい」は取ったり付いたりしますので「復」の意味と発音とを加えて、この字を作りました。

「者」は「ものがひどく多くある」こと

者の古い形はで、容器から、はみ出るほど「ものがたくさんある」ことを

表わした字です。今では、「もの」と読まれますが、部首としては、「ひどくたくさん」

という意味を表わすことが多いようです。

音は、shy→shy→tyo→toというように変化の多い部首です。

「火がひどくたくさん」つまり「火をどんどんと盛んに燃やす」という意

味の字で、「にる」こと。音は者。

「日（ひ）がひどくたくさん」つまり「日がかんかと盛んに照りつける」という意味の字で、「あつ」こと。

「邑（まち）がひどくたくさん」つまり「ひどく大きな邑」という意味の字で、「みやこ」のこと。

「言葉がひどくたくさん」という意味の字ですが、単に「たくさん」の意

味に使われています。諸国。諸侯。

煮 暑 都 諸

著

「草がひどくたくさん」という意味の字ですが、単に、「ひどい」の意味に使われています。「いちじるしい」。また、著しいものは「目立つ」ので、「あらわれる」「あらわす」という意味にも使われます。顕著。著名。著述。

緒

同音の初ショの意味の者と糸との合字です。「糸の初」つまり「糸口」を表わした字です。端緒。緒言。

「辰」は「はまぐり」

辰は「はまぐり」の象形ですが、今は貝の意味にはまったく用いられません。十二支の「たつ」として用いられたため、方角、時刻、年月日を表わすのに使われています。

震 晨

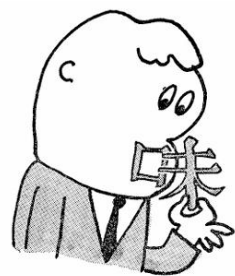
「日たつが辰の方角にある」のは「早朝」です。「早朝」のこと。子ねが北、午うまが南、この間を六つに分けて、順に丑寅卯辰巳となります。

神シンの意味の辰と雨とで、「雨を降らす雷神」を表わしました。雷の田も神の申も「かみなり」を表わした字です。雷鳴が大地をびりびり「ふるわせる」ので、「震動」という意味に使われるようになりました。「地震」というのは、中国では雷が地を震わせることです。

震の意味の辰に手を加えて「手テでふるわせる」「手をふる」という意味を表わしました。

娠 唇 振

口クチのふるふると振動テさせることのできるころは「くちびる」です。
女メの人のおなかが振動するのは、赤ちゃんができたからです。妊娠。



味

です。

未熟な果実を「食べられるかな」と思って口に
することで、「あじ」をみる」ことを表わした字

「まだ……ない」という意味に使われます。音は未。

「未」は「果がまだ小さい」こと
未は未で、「まだ果にならない」ことを表わした字です。「未熟」という意味で、

裸

「裸」は果が衣の外に出ています。つまり、衣に「裏まれ」てい
た果が「むき出し」になるという意味の字です。「はだか」。音は果が変
化したう。
裸
くだものを「つつむ」という字は「裏」という字です。衣の間に果が入っ
ています。「裸」は果が衣の外に出ています。つまり、衣に「裏まれ」てい
た果が「むき出し」になるという意味の字です。「はだか」。音は果が変
化したう。

課

「はたす」意味の果と言との会意形声字で「仕事を果たすように言いつけ
る」ことです。「課題」は、果たすように言いつけられた問題と

菓

「菓」は「くだもの」
果は果で、木に実のなっている象形です。「くだもの」のことです。種をまき、芽が
出て、木になり、花を咲かせ、最後に実を結びます。それで「最後」「はて」の意
味に用いられます。また「はたす」という意味にも用いられます。音は力。
果が「はたす」などの意味に用いられるようになったため、「くだもの」専用に使った
字です。ところが、現在では、これがまたケーキなど「おかし」の意味に用
いられるようになってしまいました。まれに「水菓子」という使い方が残っ
ています。

妹

●未熟な女^イ という意味の字で、 “いもうと” を表わしました。音は未^{マイ}。

ミ↓マイ シ↓サイ チ↓タイ キ↓カイ

未↓妹 思↓細 治↓胎 記↓改

Milk→milk signal→sign tick→tie king→kite

日がまだ上がらないので “ぐらいい” という意味の字です。 “頭のぐらいい”

意味にも使われます。愚昧。

味

魅

“未熟な鬼” という意味の字で、化け物だが人間の格好をしたものです。

人に近づき、怪しげな力で人を惑わすということです。この怪しげな力を

「魅力」といいます。

「曼」は “長い” “大きい”

曼は、冒と又との合字です。冒は冒が帽子の象形で、目深くかぶる帽子なので、すぐ下に目という字があります。防寒用の帽子です。寒いと少しでも多く顔を包みたいので、やっと目が見える程度まで深くかぶるのです。

歩いていくうちに下がってきて、目が見えなくなっても、そのまま危険を “おかし” て進むのが「冒険」です。冒が “おかす” 意味になりましたので、「帽」が帽子専用で作られました。

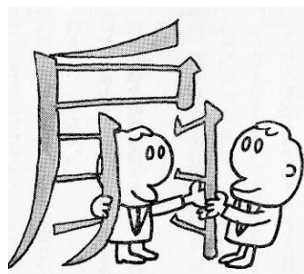
曼

蔓

帽子を目深くかぶった人の手を取って “引っぱる” ことを表わした字です。

引っぱると長くなるので “長い” “大きい” という意味に使われます。

●草の長いもの “である” “づる” を表わした字です。



扉 悲 俳

「**扉**」の意味の**非**に手を加えて、「**反対側**に押しのける」意味を表わした字です。音は**非**。排斥、排除、排球。

押しのける意味の**扌**と戸の合字。両側に「**観音開き**に開く戸」のこと。音は**非**。

心に願っていることが「**反対**」の結果になって「**かなしく**」思うこと。

「**非人**（人でない）」という意味の字です。俳優のこと。昔、**乞食**のことを「**人でない**」という意

排

「**排**」というのが本義の字ですが、今は、全く車に関係なく、「**多くの人の車**」という意味で、「**仲間**」の意味に使われています。音は**非**。同輩、先輩、後輩。

輩

「**非**」は「**反対**」ということ。非は、鳥が両翼を開いた形です。左右**反対**に向いていますので、「**反対**」の意味に使われます。音は「**背く**」の意味の**背**です。車を押しのけ合うようにぎっしりとならんでいること、つまり**多く**

慢 饅 鰻

「**長い魚**である」を表わした字です。
「**大きくふくらんだ食物**」は「**饅頭**」です。
「**大きくふくらんだ心**」という字です。「**おごりたかぶる**」意味と、「**じまりのない**」意味との使い方があります。慢心、驕慢、放慢、怠慢。
自慢と同じ意味の「**我慢**」が、逆に放慢をおさえる意味に用いられているのは、いつの時代かに逆になったものです。

悱

味で「非人」といいましたが、俳優も輕蔑されて「川原乞食」と呼ばれました。江戸時代、俳諧が盛んになって、これを作る人を「俳人」と呼ぶようになりました。

見かけない字ですが、まず、どんな意味か、考えてみましょう。論語に「憤せずんば啓せず、悱せずんば発せず」という言葉があります。〃心と反対〃という意味の字で、思っていることが、その通りうまくいえないでいらだつ、という意味の字です。これは孔子の教え方をいったもので、「勉強してかなり理解できているのだが、うまく表現できないで悩んでいる、というようにならないうちは教えてやらない」という意味です。つまり、詰込み学習を否定したものです。孔子の教え方は、今の最も新しい教育方法と変わらないわけです。

「艮」は〃立ち止る〃

艮の古い形はで、「見」の古い形と反対の形です。後ろを〃ふり返って見る〃ことを表わした字です。また、ふり返る時には立ち止まるので〃立ち止る〃という意味にも使われます。音は見の変化したコン。

限

〃崖の所で立ち止まる〃という意味の字です。崖があつて、それ以上進めなくなったことで、〃もうこれまで〃という意味の字です。〃もうこれまでとかがきる〃こと。音は見でズン。

恨根

〃木の立ち止まる〃ことのできるのは、〃ね〃があるからです。音は艮。心の中に根をはったように、いつまでも忘れられない、〃うらみ〃のこと。よくいう「根に持つ」「根に思つ」という〃うらみ方〃です。

(憾み) 一時的なもので、その場限り、あとに残らない〃うらみ〃。

痕

(怨み) 仕返しをしたく思う「うらみ」で、江戸の仇を長崎で取ることも
 しかねない。

(慍み) だれにという特定の相手のない「うらみ」。

木を切ってもあとに根が残るように、病気がなおってもあとに残るもの、
 “ぎずあと”。

「尚」は「上」

尚ショウは向シヨウとハワカ(分つ)との合字で、“窓を開けはなつ”ことを表わした字です。新鮮な

空気や日光が入ることを“願う”という意味の字ですが、部首としては上シヨウの意味に使わ
 れています。

賞

上ウの人が授ける財貨ウ、という意味の字で“ほうび”のこと。賞金。

償

賞ウはその人の苦勞ウに対する“つぐない”であるという意味です。代償、弁
 償、償却。

衣ウは、今のブラウスで、その“上”には“スカート”が裳シヨウです。尚シヨウは上ウで

“衣の上”には“意味”です。衣と裳で一組になるので「衣裳」といいます。

裳と同じ意味の字です。巾ウは布で、衣の意味です。簡単に巻ウきつけるだけ
 の物で、“ふだん着”です。今では、単に“ふだん”“つね”の意味に使わ
 れています。

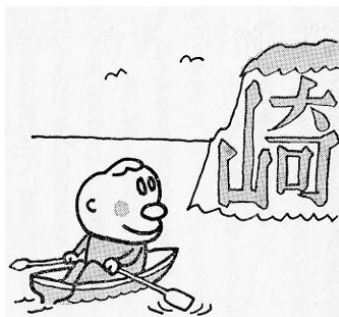
常

手ウの上にのせる“という”手の上ウです。つまり、“手の平”“たなご
 ころ”のことです。また、“仕事”という意味にも使います。

土ウを高く盛り、その上に建てた“りっぱな建物”をいいます。講堂、殿堂。

瞠 堂 掌

“りっぱな建物”に驚いて、“目を見はる”という意味の字です。



埼

「珍しい土地」のこと。変化に富む景勝の土地のこと。音訓ともに崎と同じ。

崎

「珍しい山」という意味の字です。普通の平地にある山でなく、海に突き出た、ゴツゴツした珍しい岩などの多い山のことです。「みさき」と。音は奇^キ。

「奇」は「大いによろしい」
奇とは、「大いに可なり」という意味の字で「すぐれている」「珍しい」こと。また、そういうものを二つとない、ということ、「二つ」という意味にも使われます。また、「不思議」という意味にも使われます。音は可^カの変化したキ。

硝 消 梢 宵

「肖」は「小さい」が「似ている」

肖は小と肉との合字です。「小さな肉体」という意味の字で、子供のことをいいます。子供は体が小さいだけで、親によく「似て」いるので、「親に似ている」ことを「肖」といいます。「不肖」は「親に似ていない」「愚か者」という意味で、子供が謙遜するときに使います。音は小^{シヨウ}。部首としては「小さい」意味に使われることが多い。

「家の中の人々が皆似て見える」のは「暗くなった」ためです。つまり、暗くはなりきらない日ぐれ時、「よい」のことです。

木の小さい部分、つまり「こずえ（木末）」のこと。

「水が小さい」とは「水が細る」ことで、水に限らず、物の減少する意味から、「なくなる」意味に使われるようになりました。「きえる」こと。

「消える石」とは、水につけると溶ける「硝石」のことです。

寄椅 倚

人は珍しい物に「よりつく」ので。「よる」こと。依と音訓ともに同じに使われます。

「倚りかかるための木で作ったもの、つまり「椅子」のこと。音は倚。

「家に身を倚せる」という意味の字で、「よせる」こと。音は奇。

「亢」は「ざからう」

亢は、人が両手をひろげ、両足をふんばって、通せんぼをしている形を表わした字です。

「ふせぐ」「こばむ」「ざからう」という意味です。音は高。高ぶる「意味にも使われ

ます。亢奮。

抗

「両手をあげてふせぎこばむ」こと。抵抗、反抗。

航

川の流れ、潮の流れに逆らって舟を進めること。単に「舟を目的地に向けて進める」意味に用い、今では舟に限らず、飛行機にも用いています。航海、航空。

坑

困難に逆らって、土に掘りあけた「あな」のこと。石炭や鉱石を採掘するために掘りあけた「あな」をいいます。炭坑。

「噪」は「あわただしい」

噪は、木の上に鳥がたくさんいて、「ざわがしく」さえずっていること。噪の本字です。音は騒。音訓ともに噪と騒は同じ。部首としては「あわただしい」という意味に使われます。

操

手を「あわただしく」動かす、という意味の字です。「手を巧みに使う」

繰

“あやつる”という意味に使います。また、“行ない”という意味にも使います。操作、節操。

糸を“あわただしく”とる、という意味の字です。糸を繭から取る時、糸車をがらとあわただしく回します。それで“糸をとる”ことを「繰」で表しました。これを訓で“ぐる”と読むのは、糸をより合わせるため、繭の糸口を拾って、次々に“ぐりこむ”からです。

草と水と桑の合字。水の中であわただしく動いている草、ということ、絶えず水中に揺らいている“も”のことです。海藻。

藻

「令」は人^{シユウ}とP（しるし）の合字

天子が諸侯を召集して、授けるしるしが“令”です。天子の授ける辞令“令”です。今で

は、“官庁から出るきまり”をいいます。法令、政令。

また、りっぱ “よい”という意味にも使われます。令名、令嬢。音はレイ。

怜

“心がよく働く”という意味の、心と令との会意形声字で、“賢い”“ぜとい”ということ。怜悧。

命

口と令の合字。“口で直接に伝える令”という意味の字です今では、命令も、文書、口頭に関係なく用いられています。

“いのち（生命）”という使い方は、それは天の命令（天命）であって、人力ではどうすることもできないからです。

冷

“（凍の本字・氷）と令の合字。君主の命令は氷のように“つめたく”厳しい、という意味の字です。冷凍、寒冷。

零

“じずく”がえりなどに落ちると、ひゃつと感じます。それで“つめたく

鈴

感じる雨」という意味で「しずく」を表わしました。小さいものだから「小さい」という意味にも使われ、また「ゼロ」の意味にも使われます。零細企業。零点。

よい「音を立てる金属製の「ずず」です。中国音は「リン」で、鈴の音を表わしています。つまり、「令リンとなる金」という意味の字です。風鈴、銀鈴、呼び鈴。

玲

美しい玉」のことです。また、「玉が美しい音を立てる」ことにも使います。玲瓏。レイロウ

「寮」は「明るくする」

寮は、木と日と火との合字で、「木を燃して昼のように「あかるくする」という意味

の字です。音はリョウ。

寮

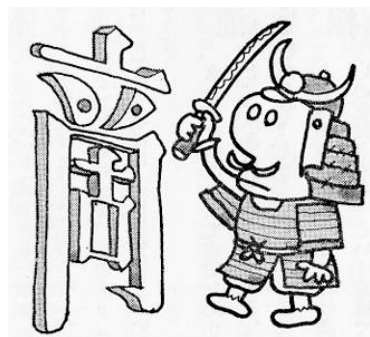
「火を昼間のように明るく一晩中燃やしている家」という意味の字です。「御垣守衛士の焚く火の夜は燃え」の歌のように一晩中燃やすのは「役所」です。わが国でも、〇〇寮という名の役所がありました。今では「学生の宿舎」の意味に使われています。

僚

「寮の人」という意味で、「役人」のことです。官僚。「同僚」というのは、「同じ役所に勤める人」ということですが、今は役所に関係なく「仲間」の意味に使われます。

瞭

「目が明るい」という意味の字で、「物事がはっきりとよくわかる」意味に使われます。明瞭、一目瞭然。



敵

目的として戦う相手のこと。父は攻撃の父で武器を手にした形。『自分と対等に戦える良い相手』という意味に使われます。

適 摘

音をも表わしています。

適は^{テキ テキ}的の意味。目的とするものを手にすること。狙ったものを正しく「つみ取る」こと。摘出、摘発。

目的に向って進むこと。『目的地に着く(目的に合う)』という意味にも使われ、さらに「うまく行く」という意味にも使われるようになりました。

適当、適材適所。

療

病氣の原因を明瞭にすることが、病氣を治すことで、いちばん大切なことです。『病氣の原因をつきとめる』ことです。治療。

「商」は「ただ一つ」

商は音の変形したもので、漢文で「ただ」と読まれ、「ただ一つ」という意味の字です。

皇帝はただ一人しかいないからです。音は帝が^{テイ}つまってテキ。

嫡

ただ一人の女、つまり「本妻」「正妻」のことです。昔は夫人が何人もいましたので。「嫡子」は、家を継ぐべき「ただ一人の子」「正妻の長男のこと」です。「嫡流」は「本家筋のもの」という意味です。音は^{チャクリユウ}商。呉音はチャク。

滴

ただ一つぶの水、つまり「しずく」のことです。音の商は、水のしたたる

「翟」は鳥の羽の美しいこと

翟は「鳥（雉）の羽」という字です。きじの羽の「美しい」という意味を表わした字です。また、「ばたばたと羽ばたく」意味を表わすこともあります。音のタク（またはテキ）は、羽ばたく音を表わしています。

濯

水をばたばたさせて衣類を洗うこと。水洗いして美しくする。意味にも取れます。洗濯。センタク

擢

きじの羽の中から、とりわけ美しいのを抜き取る、という意味で、大勢の中から選び出す。意味に使います。拔擢。ハツテキ

躍

羽をばたばたさせ、足をけて、鳥が「おどりがる」こと。音は翟タクが変化してヤク。跳躍、飛躍。

曜

「日の光が美しい」ことですが、今は「美しい天体」の意味に使います。

日曜・月曜・火曜は、「太陽・月・火星」ということです。音は翟ヤクの変化したヨク。

「己」ははじめ

己はこで、糸の先端を表わしたもので、「はじめ」という意味の字です。今は「自己」というように「おのれ」の意味に使われます。

紀

「糸のはじめ」ということで「はじめ」です。己が「おのれ」の意味に転用されたので、糸をつけて「はじめ」専用に作った字です。紀元。また、「記」の意味にも使われます。紀行文。

記

「言葉を糸のように長く続ける」という意味で「書きしるす」ことを表わしました。

忌

利己心はいけない、いむことである、という意味でいむことを表わしました。

起

走ることのはじめは立ち上がることであるということで、たつおきるという意味を表わしています。

「周」は、用とロとの合字

用は柵の象形で、はりめぐらす（甬の項参照）ことでした。周は、口をめぐらすつまり、言葉を十分に尽くして説明する、という意味の字です。したがって、物事がゆきとどく意味にも使われます。用意周到。

また、単にめぐる意味にも使われます。周遊、周期、周囲。

週

まわりをまわる、という意味の字。今では七曜の一まわりすることをい

うのに使われます。週間。

凋 凋

寒さがあまねく行きわたると、草木はしぼみます。凋落。

言葉がよくゆきとどいて、そのために物事がよくどこのことを表わした字です。ととのう。調和。

また、そのために前もってよくしらべるので、しらべる意味にも使います。調査。

彫

玉を削り、磨いてよく整えることを、彫と言ひ、これにがざりをつけるのが彫です。ミはがざりの意味の部首です。今では、彫の前に行く彫の意味に使っています。彫刻。

「白」は親指

白は親指の象形で、「大きい」という意味の字です。「しろ」の意味は、太陽光線を表す「白」との指事と見ることができます。音は擘ハク（親指）。

酒を醸造して、清酒をとったあとに残る「白い米」つまり「酒かす」のことです。

粕

昔は「親指」を立てて、十の十倍の意味を表わす約束がありました。したがって。「白ハク」が「びやく」の意味に使われました。「百」は、「二白」（ひやくが一つ）ということです。音は白ハクがなまってヒャク。

百

「大きい人」という意味の字で、兄弟中の一番年上の兄の称となりました。上から「伯・仲・叔・季」といいます。

伯

舶

「大きい舟」という意味の字です。海洋を航行する汽船のことです。「舶来」は、外国から汽船で運んできた、という意味です。

泊

青い海水が白く見えるところは、海岸に近い所です。「白い水」ということで、舟の「とまる」ことを表わしたものです。「碇泊」は、浅い所に碇をおろして「とまる」こと。今は、宿にとまることに使います。宿泊。

拍

パンという音を表わす白と手の合字。「手」を打つ「ことを表わした字です。拍手。歌を歌うとき、手を打って調子を整えます。これが「拍子ヒョウシ」です。

「半」は物を分けること

半は、牛（物を意味する）と八（分ける）の合字で、「物を二つに分ける」という意味を表わします

判

「判」は「半」の字です。昔、証書の類は、二つに切って、その一つをそれぞれが保管し、二つがぴったり合うのを証拠にしました。今では、「判」がそのかわりをします。それで、それに使う印章を「判」と言います。

伴

「二人一組の半分」という意味の字です。英語のベター・ハーフのような使

畔

田を半分にした、その真ん中の「畔」を表わした字です。境界を示しますから、「畔」の意味にも使われます。「湖畔」とは湖と陸地の「畔」という意味の字です。湖の「ほとり」。

「宛」は膝を曲げた形の「巳」と肉と家の合字

「人が膝を曲げてやっと食べていられるだけの家」という意味で「小さな家」のことです。謙遜して「自宅」の意味に使い「石井宛」というようにいいます。ところが、「石井宛に届ける」というのを「石井あてに届ける」と読んで、今では「あて」と使っています。宛名。

婉

婦人のしなやかに屈曲するさまを表わした字です。「婉然」は婦人のしなやかに美しい様子。「婉曲」は直接に言わず、遠まわしにそれとなく言うことです。

怨

人の仕打ちに直接怒りを表わさないで、遠まわしにうらみごとを言って、心のわだかまりを持つこと。

苑

草花の婉然と咲きにおっている所をいいます。「はなぞの」。動物を飼う

その“は、囲いがあるので「園^{ユウ}」といいます。「園」は、園と苑を兼ねた意味の字です。

「音」の古い形は「𠂔^ヒ」と同じ

つまり「い」ということ、「反対する」ことです。音は「𠂔^ヒ」。

倍

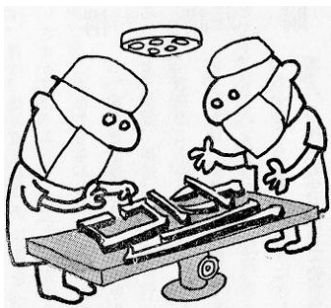
「人に反対する」という意味の字です。反対があると、今まで一つに統一されていたものが二つに分かれます。そこで「一」が二になることを「倍」というようになりました。倍加「一」が二、二が四というようにふえること。

草木に肥えた土を加えてやり、草木がふえるようにすること。二つが

う。栽培、培養。

剖 培

一つの物を二つに、二つの物を四つに、というように切ること。生き物



賠

の体を細かく切り分けること。解剖。

お金を二倍にして「つぐなう」こと。相手に

損害を与えた場合には、その償いとして、二倍

に相当する金額を支払うのが普通です。これが

「賠償」です。

「構」は「こちちから向こうへ」

構は、こちらから向こうへ物をさし渡し、組み立てたものの象形です。「こちちから向

こうへさし渡し」という意味の部首です。音は、組み立てるために物を「交差」させる

「交」。

構

「木をこちちから向こうにさし渡し」家などを立てること。「かまえる」

講 購 溝

こと。構築、構造。

「言葉はこちらから向こうにさし渡す」とは、解るように説明することです。どくこと。講義、講演。

「お金をこちらから向こうにさし渡す」とは、お金を出して物を買うこと。あがなうこと。購入、購読。

「水をこちらから向こうへさし渡す」ための「みぞ」のこと。溝渠、海溝。

「戔」は断ち切る

戔は、才（切の意味）と戈の合字です。戔で切る」という意味の字で、物を断ち

切る」ことを表わした部首です。音は才で、切の意味を表わしています。

「衣を断ち切る」のは、衣服を作るのにあたって、最初にすることです。

裁

「裁縫」は布を断ち、これを縫って衣服を作ることです。布は一旦断ちますと、変更できません。そこで、最終的な決着をつける」ことを「裁断」といいます。決裁、裁定。

「木を断ち切る」のは、無駄な枝を落として、木を立派に育てることです。

「木を植える」意味にも使います。栽培。

「断ち切った」ものを、異なった所に移すことを表わした字です。物を

いただく」こと。音は戔が変化してタイ。戴冠式。

「断ち切った」物を、車に「のせる」ことです。積載、掲載。

取った雀を焼き鳥にすべく、首を「断ち切る」ことを表わした字です。音は切る意味から切です。直截。

「何と楽しいことか」とか「行こうか」のように、文末にあって、詠嘆や

栽 戴 載 截 哉

疑問の気持を表わす終助詞で、サイというその語音を表わす部首 戔 に、表意の「口」を加えて作った形声字です。ここで、「言葉（口）が断ち切れる」という意味を表わしています。

「包」は「腹に子がいる」形

包は勹（人）と己の合字です。己はおなかの中の赤ちゃんの象形、包は、おなかの中に赤ちゃんがいることを表わした字です。腹の中につつまれているので、「つつむ」意味に使われます。

抱 抱

「手で包む」とは「だきかかえる」こと。抱擁。
食べ物を食べて、おなかで赤ちゃんでもいるように大きくなった、ということ、「あきる」ほど食べたことを表わした字です。

胞

赤ちゃんがおなかにいる意味の包に肉月を加えて、「胎児を含む肉膜」を表わした字です。人はこの胞の中で育ちますので「同胞」とは、兄弟を意味するわけです。また、生殖の働きをするものに、この胞を用います。胞子、

細胞。

砲

石を包んで、これを弾きとはす武器のことです。わが国では、これを「石弓」といいました。この大じかけなものが「大砲」です。今では石の弾丸ではなくて鉄の弾丸です。

泡

「空気を水で包んでいる」という意味で、「あわ」を表現したものです。あわは消えやすいので、降っても消えやすい春の雪を「泡雪」と言います。革で作った、物を包むための「かばん」です。この字の材料は漢字ですが、

この字は日本製です。

庖 袍 匏

家の意味を表わす「庖」と包とで、「食物を包みおさめておくへや」という意味を表わしています。「台所」「調理場」のことです。「庖丁」は、調理用の刃物という意味です。

中に綿を包んである着物 という意味の言葉で、俗に言う「綿入れ」のことです。

中に金を包んである大工道具 という意味の字です。かなは、刃が木の台の中にはめこまれているので、そう書きます。

〈4〉漢字の字体と筆順

他の字と混同しなければよい

昭和二十四年四月二十八日付の官報、内閣告示第一号『当用漢字字体表』の「まえがき」に次のようなことが書かれています。

〔使用上の注意事項〕

一、(略)

二、この表の字体は、これを筆写の標準とする際には、点画の長短、方向、曲直、つけるかはなすか、とめるかはねまたははらう等について、必ずしも拘束しないものがある。その主な例は次のとおりである。

(1) 長短に関する例

雨 雨 商 商 戸 戸 無 無

(2) 方向に関する例

風 風 比 比 仰 仰 系 系 年 年

(3) 曲直に関する例

了 了 手 手 空 空

(4) つけるかはなすかに関する例

又 又 文 文 月 月 果 果

(5) とめるかはらうか、とめるかはねるかに関する例

奥 奥 隊 隊 公 公

木 木 来 来 牛 牛 糸 糸

(6) その他

北 北 人 人 令 令

なお、文部省編『総合当用漢字表』には、

一、当用漢字字体表の字体は、活字字体のもとになる形で示してあります。これを筆写の上に適用する場合には、漢字の識別に影響しない限り、点画の長短、方向、曲直、つけはなし、または、とめるかはねるかななどの細部については拘束しません。たとえば――

とあって、その中に右の(一)～(六)の用例のほかに、

「事」を「事」と書いても差し支えありません。

「雪」を「雪」と書いても差し支えありません。

とあり、「要は、その字の骨組みである点画の組み合わせを誤らなければよいのです」

と書かれています。

昔から、漢字は他の字に読み違われない限り、点画が少々多かろうが少なかろうが、やかましく言いませんでした。漢字は、もともとそうあるべきもので、そこに漢字の良さがあるのです。

朝日新聞の「新」は「新」で、一画多くなっています。この字は、「木と斤と辛^{シン}」の合字で、「木を斤^{おの}（斧）できる」意味の字で「薪^{たきぎ}」の本字です。木の切り口が新鮮であるところから「あたらしい」意味に使われるようになったものです。

辛^{シン}はこの字の音を表わす部首です。ですから、「新^{リッ}」でなければ、辛と読めないわけです。「新」では立になる理屈ですが、昔はそんなやかましいことをいう人が居ませんでしたから、「新」が通用するようになり、今に及んだわけです。

「新」でも「新」でも通用する。要は、「読める」ことでしょう。読めないようまで

たためであつたり、他の字に読み違えられては困りますが、相手にまちがはなく読める程度の形であつたら、やかましく言わないでいいわけです。

幸い、文部省でも、「雪」でも「雪」でも結構だ、と言い、「漢字の識別に影響しない限り、細部については拘束しません」と明言しているのですから、神経質になる必要はないのです。

吉と吉・末と末

ある時「私は先生から、キチは吉と書き、ヨシダのヨシは吉と書く、と教わりましたが、それは正しいのでしょうか」と質問されたことがあります。

キチは音で、ヨシは訓で、キチもヨシも同じ字であるのに決まっています。吉、佳、良、善、好……これらは皆、国語の「よい」という意味に当たる言葉で、音はそれぞれ異なり

ますが、訓は皆「よし」です。

さて、「吉」は、「土ちの口から出る言葉は皆よし」という意味で作られた字ですから、上が長く下が短くなければ道理に合いません。「吉」では、「口くに土ちが入いってわるし」になる理窟ですが、そんな野暮なことを言う人がいなかったので「吉」という字も通用しているわけです。

つまり、「吉」も「吉」も同じ字として読めるわけで、これが「識別に影響がない」ということです。

ところが「月末」の「末」と「未来」の「未」とのように、上が長い、下が長い、異なった字になってしまふものがあります。これは、「識別に影響がある」わけですから、はっきり書き分ける必要がある、ということになります。

ところが、今の学校では、「雪」と書けば×にされるのはおろか、「木」と

書いたのまで×にされることがあるということです。これは漢字使用の伝統から言っても、文部省の方針から言っても、とんでもない行き過ぎです。

伝統的筆順は自然で美しい

漢字を書くのに、筆順ということがあります。これは、長い間に自然に出来上がったもので、これにしたがって書くと、書きやすく、また、書かれた字の形も整いやすいのです。

しかし、筆順は、字によっては、三通りも四通りもあるものがあること、また、筆順というものは、正誤を問題にする性質のものではないことを知っておきたいと思います。

昭和三十三年三月三十一日に、文部省から「筆順指導の手引き」が交付され、それには教育漢字の各字について、ただ一種類の筆順しか示されていないため、それと異なる筆順で書けば誤りだ、と思い込んでいる先生がいます。

そのため、「右」を「一ノ口」という順序に書けば誤りとする先生がほとんどということですが。しかし「一ノ口」を誤りとすることこそ誤りであり、法令にそむく行為でもあるのです。という訳は、文部省の『手びき』の「本書のねらい」に、

もちろん、本書に示される筆順は、学習指導上に混乱をきたさないようにとの配慮から定められたものであって、そのことは、ここに取りあげなかった筆順についても、これを誤りとするものでもなく、また否定しようとするものでもない。

と明記されているからです。「右」を「一ノ口」と書くのは、行書や草書の場合で、楷書では「一ノ口」の方が書きやすく、形も整いやすいのです。

「田」も「口」―「一」と示されていますが、これも楷書では「口」―「一」と書く方が書きやすく、形も整いやすいのです。

筆順が、書きやすいこと、形の整いやすいことを目的とするものである以上、最も良い書き方に×をつけるとは、何とも愚かなことと言わなければなりません。

どう書いても『誤り』とは言えない

くどいようですが、『手びき』には「別の筆順でも誤りとしない」と、明記されているのです。これは、筆順の性格上当然のことです。

道理から言えば、漢字は、書かれた字形が問題であって、それがどのように書かれたかは問題ではないのです。ただ、一般的に書きやすい順序があるから、それにしたがって書いた方があなたのためになるのですよ、ということなのです。ですから、「いや、一般的にはそうでしょうが、わたしはこの方が書きよいのです」という人があったら、それに付いてとやかく言うべき筋あいものではないのです。

ローマ字でも、「A」は、ていねいに書く時は「↘↗」と書き、「D」は「↘↗」と書

きますが、普通は「△」「▽」「∩」と書きます。

そのように、漢字でも、楷書と行・草書とは筆順が違うのです。ところが、『手びき』では、一つを取り上げるということで、迷ったと思いますが、結局、将来のことを思っています。行・草書の筆順を取り上げました。

したがって、小学校で楷書で書くのには、かえって書きにくい筆順になってしまいました。書きにくい筆順を載せたので、「他の筆順を誤りとしない」ことをとりわけて明言する必要があります。ともあれ、「正しい筆順」とか「誤った筆順」とかいうものはないことを、漢字を使用する人は皆知っていたきたいと思っています。

ただ、漢字に限ったことではありませんが、教える立場にある者は、正しく美しいものを自らが手本として常に示していくことを心がけるべきでしょう。親や教師が、自分に厳しくして、りっぱな手本を示してさえいれば、子供はそれを見ならつてくれます。

つまり漢字の字体でも、筆順でも、黒板に書く時、常に、一画一画、正しく美しく書いていけば、子供たちは「ああ、あのよう書くのか」ということで、自然に、正しい字を書くようになります。

わたしはよくあちこちの学校を訪問しますが、誤字というよりも、でたらめ字が書かれている掲示を見ることがよくあります。そしてそのたびにわたしは、子供たちに厳しく要求するよりも、先生みずからが、自分に厳しくして、漢字を書く力をしっかり身につけて、常に良い手本を示すことに努めてほしいと思います。

※本書に關係する団体の住所は次の通りです。

田中登龍館 大阪市生野区林寺町一八七 電話(大阪)七四一九〇二六

ひかり幼稚園 川崎市貝塚一〇二二二二 電話(川崎)二四一五五四一